

学校努力点テーマ 「育てよう生き生きと学ぶ松原っ子」

— よく知ること よく考えること よく表現することを通して —

※ 今年度は、「考えが深められるように」授業実践に取り組みます。

1年 体育科「ボール投げゲーム」の実践

壁当てゲームやボール投げゲームを通して、横向きの姿勢から1歩踏み出し、体を回転させて投げること、飛んでくるボールの方に素早く動いて、ボールを止めたり受けたりすることを身に付けます。ボール投げゲームにおいて、どうすると得点できるのか、どうやって守るとよいかを考えました。

○ よく考えるための手だて

① 自分の考えをもつことができるように

攻め一人、守り一人の易しいゲームを行い、ボール投げゲームの攻め方や守り方を図で表して、どうすると得点できるのか、どうやって守るとよいかを考えやすくしました。

② 対話をして、考えが深められるように

共有した攻め方や守り方について、ゲーム後にできていたかどうかを、グループで話し合い◎・○・△で評価して、振り返るようにしました。その際には、できていたかどうかを評価するための基準になるよう板書をして、それを基に、どうするとよいかを考えることができるようにしました。

○ 授業の様子（アンダーライン：今後の課題）

これまでゲームを行うことで、どこに投げると得点できるか、守るときにはどのようにしたらよいかを考えながらゲームに取り組む姿を見ることができました。多くの子どもが意見を言うことができ、右の内容で「攻め」「守り」について、共有することができました。

攻め：相手のいないところを狙って投げる。
隅を狙う。
投げる振りをする。
取ったらすぐ投げる。
守り：動きながら守る。
手を広げて守る。
2人の立つ位置を考える。

本時では、ゲームの前に、右の内容をホワイトボードに提示して、これを意識してゲームに取り組むように伝えました。ゲーム中、相手のいないところや隅を狙って投げるが、枠から外れることがありました。そんなときに「惜しい」「いいところを狙っているよ」などと、見ている子どもが声を掛ける姿が見られました。また、「空いているところを狙って」「もっと早く投げて」と教える声も聞くことができました。子どもたちは、共有した内容を、よく意識してゲームに取り組んでいました。



隅を狙って投げる様子

ゲームが終わった後、攻めと守りがどうだったかをチームで話し合っ◎・○・△で表しました。「この前よりも、相手の動きを見て、ボールを投げて得点できたから◎だね」や、「守りの時に間を狙われちゃった時もあったから○かな」といった話合いができ、考えを深めているチームは多くありませんでした。このことから、示された項目ごとに個人で振り返り、それから全体で振り返るというように板書を利用するよいことが分かりました。 今後は、板書をどう活用するのかを考えることによって、考えを深めることができると考えます。